

「美貌の想い」

山田えみこ

人物

モモコ ( 17 / 77 ) 高校生 / 主婦

ジラフ ( 25 / 85 ) マジシャン / 無職

アパートの管理人

ジラフの娘 ( 50 )

○沖縄・那覇市・沖縄本島（夕）

T・「沖縄・那覇市」

沖縄本島を上空から俯瞰。

○マジックバー「ブルーオーシャン」（夜）

T・「マジックバー」『ブルーオーシャン』

少し煙たいホール。

満員の客が、酒を飲んだり、食事を摂ったりして騒いでいる。

中央奥に、垂れ幕のかかった舞台がある。

観客席のセーラー服姿のモモコ（17）が、目を輝かせて舞台をみつめる。

にぎやかな音楽が鳴りだし、ドラムの音。

MCの声「さあ！会場のみなさん！長らくお待ちせしました、沖縄の美貌、ジラフの登場です!!」

大きな歓声と拍手。

垂れ幕が上がり、ジラフ（25）の登場。

彫りの深い端正な顔立ちと完璧な体軀。  
モモコの顔が喜びにほころぶ。

モモコ「ジラフさん!!」

ジラフは、観客席のモモコに気づくと  
笑顔をちらりと向ける。

会場は、大歓声。

ジラフのマジックショーが始まる。

○マジックオーシャン裏口・外

古びた木戸のすぐ外で、モモコがそわ  
そわ。

ジラフが、勢いよく木戸から出て来て、  
モモコをみとめる。

お互い、おどろいて、

ジラフ・モモコ「わあ!」

見つめ合う二人。

お互いに頬が紅潮している。  
固く抱き合う。

○砂浜の海岸

波打つ海岸。

ジラフとモモコが連れ立って散歩して  
いる。

モモコ「ふふ、ジラフさんって、何でそんな  
に綺麗なんだろ。女の子でも嫉妬しちゃ  
う！」

ジラフ、微笑む。

モモコ「ほんつとに、麗しい」

ジラフ「モモコは、いつもそれだ」

モモコ「だって」

ジラフ「美しさだけかい？」

モモコ「う……ん」

モモコ、首をかしげる。

ジラフ「ねえ、モモちゃん」

モモコ「ん？」

ジラフ「将来、ずっとボクのそばにいる？」

モモコ「え？」

ジラフ「ずっと、さ」

モモコ「え？なにそれ？プロポーズ？」

ジラフ「ずっと、……ボクが年老いて、今みたいじゃなくなっても」

モモコ「うん？」

ジラフ「……」

ジラフ、モモコをみつめる。

モモコ「しらない。ジラフさんは、ずっと美しいままだもん」

ジラフ「モモコ！」

笑い合う二人。

○モモコのアパート（外観）

慌てて二階へ階段を登るジラフ。

○モモコの部屋（外）

モモコの部屋のドアをあわてて叩くジラフ。

ジラフ「モモコ！モモコ！」

アパートの管理人が、階段を登ってきてジラフに言う。

アパートの管理人「ああ、モモちゃんなら、

内地に引っ越したよ？」

ジラフ「え？」

アパートの管理人「急に、お父さんの転勤が

決まったんだって」

ジラフ「なんだって!？」

呆然とドアをみつめるジラフ。

### ○沖繩本島

本島を上空から俯瞰。

### ○砂浜の海岸

T・「六十年後」

モモコ（T）が、ひとり、歩いてい  
る。

感慨深げ。喪服姿。

### ○ジラフの自宅・玄関前

吊いの垂れ幕がかかっている。

家のなかから読経の声。

モモコが、通りから、中を覗き込む。

○同・玄関すぐの居間・中

十人ほどの弔問客。

ジラフの娘（50）が座っていて、モ

モコに気づく。

ジラフの娘「あ」

○同・玄関

モモコのほうにジラフの娘、走り寄る。

ジラフの娘「モモコさん、ですね？」

モモコ、ゆっくりとうなづく。

モモコ「ここは、昔の、マジシャン、ジラフ

さんの？」

ジラフの娘「ずっと、父は、探していました」

遺影のない、葬儀場。

奥に棺。

ジラフの娘「どうぞ、お入りください」

○同・居間・中

おそるおそるモモコが入る。

ジラフの娘、座ることをうながす。

おごそかにお辞儀するモモコ。

部屋の奥の棺をみつめる。

ジラフの娘「父は、ずっと探してたんですよ。

母が、嫉妬するくらいに。けど、父は、ず

っとあなたの写真をみていて」

モモコ「……」

ジラフの娘「モモコさんを、懐かしがって

ました。どうして、急に姿を消したんだ、

って」

モモコ「あのとき……、父の転勤で急に東京

へいきました。したら、急に父が、上司

の息子さんと縁談を進めてしまつて。私な

んかの年代でも、もう、めずらしいことだ

つたんですがね」

ジラフの娘「そうなんですか」

モモコ「あつという間に時間が過ぎて、生活

に追われて、いつのまにか……」

懐かしむように、棺をみつめるモモコ。

読経が響く。

モモコ「……」

ジラフの娘「……」

読経と鐘の音。

モモコ「あの、お願いが」

ジラフの娘「？なんでしょう？」

モモコ「一目だけ、一目だけ、顔がみたいんです」

ジラフの娘「……いいですよ？」

ジラフの娘が、ゆっくりと棺のそばに  
よる。

モモコもついて、にじりよる。

モモコにジラフの娘がうなずく。

モモコもうなずき、棺に手をかける。

爆発音。

煙があがり、棺がこなごなになる。

モモコとジラフの娘が吹き飛ばされる。

その場にいた一同「あ！」

煙がひとかたまりになり、人の影になり、  
空中をさまよいだす。

ジラフ（85）の声が、煙のかたまり  
からする。

ジラフの声「見られたくない！見られたくないー!!」

煙のかたまりが、すうーっと空中を  
とび、家をでていく。

呆然とみつめるモモコとジラフの娘、  
ほかの弔問客たち。

### ○病院の待合室

包帯を腕に巻き、大きな絆創膏を頬  
に貼ったモモコと、包帯を腕に巻い  
たジラフの娘が座っている。

ジラフの娘「戦時中の手りゆう弾かなにかの  
不発弾が、爆発したそうです」

モモコ「ジラフは……、年老いた姿を……」  
すすりなく、モモコとジラフの娘。

おわり